

令和4年度赤江まつばら支援学校 学校関係者評価

学校評議員回答:4名

評価指標	A	B	C	D	E
1 ICT(情報通信技術)教育の更なる充実					
① 昨年度のICTを活用した授業実践の推進継続し、個に応じた指導・支援の充実を図っている。	4				
② オンラインやオンデマンドでの学習を全児童生徒が受けられるよう、機器などの適切な貸し出しや整備等を行っている。	2	2			
③ SNS等による被害者、加害者にならないよう、情報モラル教育の推進を図っている。	1	3			
2 Career(キャリア)教育の充実					
④ 児童生徒への自己の病気等を正しく理解させ、自己管理ができるようにするとともに、適切な将来像が描ける教育の推進を図っている。	1	3			
⑤ 自分の意思や気持ちなどを周りの人に適切に伝えるスキルを身に付けさせるとともに、将来的にも困ったときに助けを求められるスキルの習得を図っている。	3	1			
⑥ 小学部段階から保護者を含め、進路等に関する情報を積極的に発信している。		3	1		
⑦ 卒業生やその保護者等の現状や18歳成年年齢引き下げ等の就学中に必要な資質等について理解できるように指導や情報提供に努めている。		3	1		
3 Compliance(コンプライアンス)の徹底					
⑧ 法令遵守について、ミラ임や研修会、職員会議等をととして法的根拠等の理解を進めている。	3	1			
⑨ 会議等において、建設的な意見が出し合える社会的スキルの高い会議等の在り方を身につけている。		4			
⑩ ハラスメントについては、本人の自覚がないことが多いため、職員同士で適切に声かけ合えるよう 努めている。		4			
⑪ 児童生徒へのハラスメントに対応する窓口の周知を図っている。		3	1		
⑫ 高い人権意識と専門性をもった指導・支援が実践されている。	1	2	1		
⑬ 児童生徒の発達の段階に応じた言語環境を意識し、教職員が幼児児童生徒のモデルとなるようにしている。		2	2		

■評価基準■

【A】よく当てはまる 【B】当てはまる 【C】あまり当てはまらない 【D】全く当てはまらない 【E】分からない